

森浜遺跡出土の古代楽器

水中遺跡「森浜遺跡」

昭和52(1977)年の琵琶湖総合開発事業に伴い、新旭町の湖中に埋蔵されている森浜遺跡が発掘調査されました。調査は3次にわたり、弥生時代後期～古墳時代前期の土器や木製品が発見され、東海地方・北陸地方・山陰地方など近江周辺の地域と交流を示す資料も多数見つかりました。また、近江国内に目を向けると、湖南地域や湖東地域と比較して畿内から運ばれてきたと考えられるものが多く見られました。このことは各



森浜遺跡を望む

地域から森浜遺跡へ人・モノ・情報の流入が盛んであったことを示しています。

森浜遺跡はこれらに加え、近隣の遺跡との関係や地理的条件から、湖上交通を管理・掌握する港的性格をもつ遺跡であると考えられています。

豊富な木製品

木製品などの有機物は通常、土の中で長い年月をかけて分解されますが、水中や湿地帯などの土壌に水分を多く含む場所では、分解されにくく良い状態で出土することがしばしばあります。

水中遺跡である森浜遺跡でも農耕具類・紡織具・祭祀具・容器類・食器などの木製品が多量に見つかっています。土木用木材や屋根の部材と思われる木材も検出されており、古代の人が生活していた当時、堅牢な建物が存在していたかもしれません。

調査で見つかった木製品「琴」

他にも発掘調査では、土の中から

3点の琴と琴の弦を支える琴柱1点が発見されました。

琴の歴史は古く、和琴(倭琴)の原型は弥生時代にまでさかのぼります。現在の琴(箏)の形は奈良時代に伝来した唐琴の影響を受けて改良されたと考えられています。和琴は古墳時代の形象埴輪にも登場し、祭祀や政治的な場で使われていたといわれています。このことは『古事記』や『日本書紀』からもうかがうことができ、非日常的な祭儀や神事で使用されていたようです。

森浜遺跡では、琴以外にも大型盤や舟形代などの祭祀的な要素をもつ木製品が共に見つかったことが



ミュージアム展示中(令和8年3月まで)

ら、音を奏でる祭祀が行われていたのかもしれない。

現在、中江藤樹・たかしまミュージアムでは、森浜遺跡出土の琴を展示しています(令和8年3月まで)。展示品から作られた琴の復元品も置いていますので、古代の音色を奏でてみてはいかがでしょうか。

関文化財課 ☎(25)8559



ミュージアム X



ミュージアム YouTube

編集感

明けましておめでとうございます。表紙は、午年にちなんでメタセコイア並木の馬車の写真です。撮影日12月4日には雪が降り、雪と紅葉が同時に見られる珍しい景色に出会えました。午年といえば、前向きな気持ちで行動するのにぴったりの年。この機会に、しばらくやってなかったパンづくりをしてみようかなと思っています。皆さんは今年何か始めてみたいことはありますか？この一年もウマくいきますように。(S)



広報たかしま

令和8年

1

月号

No.312

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒510-0102 滋賀県高島市新旭町北畑50番地

☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp

